

アイヌ政策推進交付金事業計画

1 事業名	標茶町アイヌ政策推進事業
2 事業の種類	文化振興事業・地域・産業振興事業・コミュニティ支援事業
3 事業の目的	地域に存するアイヌの歴史や文化等を保存・情報発信し、理解促進と集客による地域の産業振興を活性化させ、次世代への継承や魅力ある地域社会の形成を目的とする。
4 事業の概要	<p>(1) 文化振興事業</p> <p>【アイヌ文化の体験交流】</p> <p>①アイヌ文化に関わる体験伝承事業</p> <p>○事業実施主体 北海道標茶町</p> <p>○事業実施場所 標茶町博物館</p> <p>○事業の実施時期 令和6年8月～12月 (刺しゅう講座2回実施)(菱の実採取1回実施)</p> <p>○事業の内容と考え方</p> <p>地域の人々が本町固有のアイヌ文化への理解を深めるとともに、アイヌ文化継承者を育成するため、以下の事業展開を図る。</p> <p>ア) アイヌ文化に関わる体験事業</p> <p>本町塘路地域では、アイヌ文化が息づき伝承されてきた。アイヌ文様を施した刺しゅうが行われてきたが、近年指導者と共に学ぶ機会も減少傾向にある。本事業ではアイヌ文様の刺しゅう講座を行い、アイヌ文化への理解を深めるとともに、アイヌ文化について興味を持つ人の発掘と後継者育成も進める。</p> <p>イ) ペカンペ(菱の実)採取体験事業</p> <p>塘路湖に生育する菱の実は、塘路アイヌを象徴する食料で古くより親しまれてきた。現在は塘路地域住民の間のみ流通する食材となっているが、地元で長く活動されているレイクサイド塘路と塘路漁業組合の協力を得て、塘路アイヌや塘路地域で食べられていた伝統的な調理法で菱の実を食す。</p> <p>本事業を通じ、塘路湖という特徴的な自然環境との共生とともに栄えた塘路アイヌへの理解を深め、アイヌ文化の地域性について興味を持ってもらう。</p> <p>(2) 地域・産業振興事業</p> <p>【アイヌ文化関連のプロモーションの実施】</p> <p>①アイヌ文化伝承普及イベント事業</p> <p>○事業実施主体 北海道標茶町</p>

	<p>○事業実施場所 北海道標茶高等学校</p> <p>○事業の実施期間 令和6年7月～10月</p> <p>○事業の内容と考え方</p> <p>アイヌ文化の普及及び発信を行う若い担い手の一人である関根摩耶氏を中心として、同様にアイヌ文化の口承文芸や木彫を行っている若い世代のアイヌ文化伝承者2名をお招きし、標茶高校を会場として若い世代へアイヌ文化を知って頂く講演と、特別体験を行うイベントを開催する。高校生を中心とした参加を呼びかける他一般町民へも参加を呼びかけ、アイヌ文化について理解と共感を深める機会を設定する。</p>
<p>5 アイヌ施策推進地域計画における記載</p>	<p>アイヌ施策の推進に必要な事業に関する事項 (アイヌ施策推進法第10条第2項第2号及びアイヌ政策推進交付金事業実施要綱第6条に基づく分類)</p> <p>4-2 アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アイヌ文化に関わる体験伝承事業 <p>古くよりアイヌコタンが所在し、その伝統文化が継承され続けてきた本町のアイヌ文化に関わる一般住民を対象とした体験学習や講演会を、体験伝承事業として位置づけ、継続的に開催する。</p> <p>4-3 観光の振興その他の産業振興に資する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アイヌ文化伝承普及イベント事業 <p>塘路口琴研究会「あそう会」を中心としたムックリ演奏会、白糠町のアイヌ文化保存会等に協力を求め、アイヌ歌舞などの鑑賞を行う他、ムックリ作り体験及び演奏講座や、アイヌの食文化に根差した食事の体験試食会などを合わせたアイヌ文化伝承普及を目的としたイベントを行う。また開催年度により事業内容についても変化を持たせ、本事業の成果を示すことも踏まえた事業等も行う事により、事業参加者の幅を広げる試みも行う。</p>
<p>6 事業の成果目標等</p>	
<p>(1) 目標達成に向けた工程</p>	<p>(1) 文化振興事業</p> <p>①アイヌ文化に関わる体験伝承事業</p> <p>継続的連続的にアイヌ文化について学ぶ体験事業と学習講座を開催することで、地域の人々が本町固有のアイヌ文化への理解を深めるとともに、アイヌ文化継承者を育成する事業であり、体験事業・学習講座の参加者数が増加するほど効果が高まると考えられる。</p> <p>(2) 地域・産業振興事業</p> <p>①アイヌ文化伝承普及イベント事業</p> <p>本事業を継続的に実施することで、地域のアイヌ文化への理解が深まるほか、協力者を発掘し、また育成につなげることで、本町のアイヌ文化伝承の担</p>

	<p>い手を増やし継続させる入口の事業として位置付けることができる。併せて博物館を会場とすることにより、入館者増に結び付くと考えられる。また同じイベントの継続は避け、年度毎に内容変更を図ることにより幅広い層が参加できる事業推進を行う。本事業への参加を通じ、標茶のアイヌ文化への興味を深めてもらい、博物館の利用増を図る。</p>
<p>(2) 成果目標、(中間) 目標年度 (成果目標に対する現状値、及び成果目標の達成見込みについて記載すること)</p>	<p>(1) 文化振興事業</p> <p>①アイヌ文化に関わる体験伝承事業</p> <p>体験事業・学習講座参加者数</p> <p>(現状値) 令和2年度 一人</p> <p>(中間目標) 令和5年度 55人</p> <p>(最終目標) 令和7年度 65人</p> <p>(2) 地域・産業振興事業</p> <p>①アイヌ文化伝承普及イベント事業</p> <p>標茶町博物館ニタイ・トの入館者数</p> <p>(現状値) 令和2年度 3,547人</p> <p>(中間目標) 令和5年度 6,000人</p> <p>(最終目標) 令和7年度 7,000人</p> <p>③アイヌ文化関連施設整備事業 (本事業自体は令和4年度にて終了)</p> <p>標茶町博物館ニタイ・トの入館者数</p> <p>(現状値) 令和2年度 3,547人</p> <p>(中間目標) 令和5年度 6,000人</p> <p>(最終目標) 令和7年度 7,000人</p>
<p>(3) 成果目標の確認方法</p>	<p>博物館及び駅通所の入館者数については、事業実施部局の外部委員会である博物館運営審議委員会により、達成状況を確認・検証し、事業の効果的な実施を目指す。また数値については『標茶町博物館紀要』『標茶町博物館活動報告』にて公表する。また成果目標の確認については、併せて標茶町役場ホームページや標茶町博物館ホームページ内にて閲覧できる状態とする。</p>
<p>7 地域の概要</p>	
<p>(1) 地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題</p>	<p>本町においては町名である標茶 (シペツチャ=大川端、大きな川 (釧路川) の端)、周辺町域となる塘路 (トウロ=沼の処)、虹別 (ヌウシュベツ=豊漁の川)、磯分内 (イソポウンナイ=兎のいる沢) など、アイヌ語に由来する地名が数多く残されている。釧路地域と、斜里及び標津方面とを結ぶ交通の要衝でもあった標茶町域は、釧路アイヌの勢力圏内に位置し、釧路川中流域に位置する標茶と塘路、西別川上流域に位置する虹別には一定規模のアイヌコタンがあった。これらコタンについての記録は、江戸幕府による第1次直轄期 (1799年~1821年) 及び第2次直轄期 (1855年~) に複数回行われた巡検記録などに見る事ができる</p>

が、もっとも詳しい記述を残したのは1858年（安政4年）に行われた松浦武四郎による調査記録『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌』である。この中で武四郎は本町内の多くについて記述を残しており、また西別川の水源、シラルトロ沼、塘路湖については絵図を書き残すなど、当時の本町におけるコタンや土地の状況等を詳細に記録へ留めている。

本町の塘路、虹別地域は明治期以降の北海道開拓が進む中でも、伝統的なアイヌ文化における祭事は継続し行われていた。塘路コタンのペカンペカムイノミ（ペカンベ祭りとも呼ばれる）に関しては、昭和初期の記録としてペカンペカムイノミの様子を書き留めた見聞録及びアイヌ文化研究者による学術調査報告があり、虹別コタンで行われたクマ送りについても、同様の学術調査報告書が残されている。特に1990年（平成2年）頃まで行われていたペカンペカムイノミは、植物（菱の実）を対象とするアイヌ文化の中でも特色のある祭事である。

両コタンで使用されていた地域のアイヌ文化に係る伝統的な生活民具、祭具の一部は、標茶町博物館で保管している他、現在失われてしまった祭具の復元事業を平成11年度～平成22年度にかけて実施しており、事業内で製作された祭具も併せて展示している。

また本町のアイヌ文化の特色として、19箇所のチャシ、3箇所の送り場も周知の埋蔵文化財包蔵地として登録している。また「シラルトロ第1チャシ」「同第2チャシ」「マタコタンチャシ」については、平成27年度に国指定史跡となった「釧路川流域チャシ跡群」を構成するチャシ群に含まれており、今後の活用について関係1市4町（標茶町・釧路市・釧路町・弟子屈町）にて現在検討されている。

本町にアイヌ協会はないが、アイヌ文化や歴史に関わる文化財は多数残されており、これらの情報を蓄積し展示や事業等を通して発信する拠点として標茶町博物館ニタイ・トがある。またかつてコタンのあった塘路地区には、アイヌ文化の楽器であるムックリの演奏を中心とした文化サークル「塘路口琴研究会あそう会」があり、本町のアイヌ文化の伝承活動をされてきた方などが在籍していた。残念ながら「塘路口琴研究会あそう会」は令和5年7月末にて開催となったが、主要な元会員との連携は取れており、今後も当町におけるアイヌ文化事業へと協力が得られる体制となっている。博物館や塘路地区公民館とのアイヌ文化普及に係る連携事業も継続的に実施しており、町民のアイヌ文化へ対する意識も高い。また北海道白老町に国立アイヌ民族博物館（ウポポイ）がオープンしたことにより、北海道内のアイヌ文化が国内外に注目されており、北海道内におけるアイヌ文化の発信拠点の一つである釧路市阿寒地域に隣接する標茶町にも、すでに釧路湿原国立公園における観光拠点として知られている塘路地域を中心に、アイヌ文化を目的とした観光客の増加が見込まれる。

本町を含む釧路地方のローカライズなアイヌ文化に関し、町民や本町を訪れる方々へ積極的な理解への促進を深めるとともに、アイヌ民族にルーツを持つ

	<p>人々へは、自らのルーツに誇りもち生きられる社会実現を目指す。一方でこれらの実現に際し大きな課題として、本町に関わるアイヌ民俗資料の不足と共に博物館の整備強化、文化を受け継ぐための担い手不足が顕著であり、本事業を通じ目的達成を果たしたい。</p>
<p>(2) 施設等の管理運営体制</p>	<p>標茶町博物館ニタイ・ト及び旧塘路駅通所は、標茶町が管理運営している。</p>
<p>(3) アイヌ関係団体及び地域住民の協力体制</p>	<p>アイヌ文化の関連団体である塘路口琴研究会あそう会は、令和5年7月末に解散したが、主要な会員との連携は取れており適時意見交換等を行っている。</p>

8. 収支予算

(1) 収入の部

(単位：円)

区 分	本年度予算	前年度予算額	比 較 増 減	
			増	減
国庫補助金	625,000	1,000,000	0	1,000,000
市町村負担額	157,000	250,000	0	250,000
計	782,000	1,250,000	0	1,250,000

(2) 支出の部

(単位：円)

経 費 区 分	本年度予算	前年度予算額	比 較 増 減	
			増	減
文化振興事業	339,000	50,000	289,000	0
報償費	150,000	40,000	110,000	0
需用費	49,000	10,000	39,000	0
委託料	140,000	0	140,000	0
地域・産業振興事業	443,000	1,200,000	0	757,000
需用費	3,000	0	3,000	0
委託料	440,000	1,200,000	0	760,000
工事費	0	0	0	0
備品購入費	0	0	0	0
合 計	782,000	1,250,000	0	468,000
報償費	150,000	40,000	110,000	0
需用費	52,000	10,000	42,000	0
委託料	580,000	1,200,000	0	620,000
工事費	0	0	0	0
備品購入費	0	0	0	0